

## 平成29年度「しがこども体験活動実践交流会」

子どもの体験活動や青少年教育に関わる機関・団体等を対象に、事例発表や意見交換等とおしてネットワークを構築し、子どもたちの体験活動の充実や活性化を図るとともに、各機関・団体の連携を推進することを目的として実践交流会を実施しました。

### 【日時】

平成30年2月1日（木）13：20～16：30

### 【会場】

滋賀県庁東館7階大会議室

### 【対象】

- ・「しがこども体験学校」、「地域で学ぼう『出前講座』」事業実施団体
- ・行政関係者（市町職員、公民館等職員等）
- ・社会教育関係者、青少年教育団体
- ・学校教育関係者、放課後児童クラブ職員
- ・県内各大学

### 【参加者】

90名



### 【開催日程・内容】

日 程	内 容
13：00	受付
13：20	開会あいさつ、日程説明
13：30	事例発表 ①「通学合宿等地域での子どもの体験活動」の取組 発表者 南笠東まちづくりセンター 宇野 千智 氏 ②「しがこども体験学校」事業実施団体の取組 発表者 ぼてじゃこトラスト 武田 繁 氏
14：20	こども体験活動アピールタイム ※小グループに分かれて情報交換
14：45	休憩
15：00	グループ討議 ・グループに分かれて討議・情報交換 ・3グループの発表
16：20	閉会

## 【事例発表】

### ○「通学合宿等地域での子どもの体験活動」の取組

「南笠東通学合宿」の取組を中心に、それを支えるしくみや地域の体制についての発表でした。通学合宿の主催者である「地域協働合校推進委員会」は、自治会や老人クラブ、民生児童委員等、地域の19の団体に構成されており、通学合宿をはじめ、地域の様々な事業での協働や、保護者や中学生を巻き込んだ取組を展開しています。地域全体で子どもを育てていくためのヒントを数多く教えていただきました。



### ○「しがこども体験学校」事業実施団体の取組

「ぼてじゃこトラスト」が長年取り組んでこられた保全活動や自然体験活動、地域活動の支援についての発表でした。大学や博物館と研究協力することで活動の幅が広がっていったことや、大学生へと成長した参加者が研究に携わるようになったことなど、20年以上活動を継続することができた秘訣をいろいろと教えていただきました。実際に自然とふれ合うことは、「命や自然に関する皮膚感覚を養う」ことであり、子どもの体験活動の重要性を改めて感じました。



## 【アピールタイム】

事前に38の団体から提出いただいたアピールシートを冊子にして配布しました。滋賀県で推進している「SMAP」という仲間づくりに効果的な手法を用いて、小グループに分かれ、情報交換をしました。



## 【グループ討議】

事前に選んでいただいたテーマをもとに、60分間のグループ討議を行いました。テーマにとらわれず、各団体の取組や悩み、課題解決のアイデア等についても活発に情報交換が行われました。

子どもの体験活動や青少年教育に関わる方々が、世代や立場の違いを越えて交流できる機会を設けることの意義と、それを通じて広くネットワークを構築することの重要性を再認識することができました。

